

「CSR&コンプライアンス研究フォーラム」フォーラムニュース 76号

発行：「CSR & コンプライアンス研究フォーラム」
〒105-0003 東京都港区西新橋 1-14-7 山形ビル3階
TEL 03(3504)9800 FAX 03(5157)3180
E-Mail esm-hq@eco-texj.co.jp
HP : <http://www.eco-texj.co.jp>

残夏の候、ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

フォーラムニュース76号をお届けします。

7月16日 第67回研究フォーラムセミナーが開催されました

ご出席の皆様から近況をご報告いただきました後、今回は、このフォーラムでの今後の研究取り組み課題を検討するため、ご出席会員皆様で、フリー・ディスカッション形式で、忌憚のない意見交換を行っていただきました。



冒頭、近藤事務局長から、概ね①企業の発展にどう生かしたいのか②企業のリスク管理にどう担保していくか③フォーラム自体の内容をどう特化していくか——などで、色々な角度からお話及びご意見をお聞きできればとして始まりました。

以下、ご出席者の主なご意見の概要をまとめました。

EK氏：（当社だけの問題かも知れないがとして、自社のライセンスの貸し借り及びライセンサーやライセンシーなどの一部の業務内容について説明したのち）

ライセンスのチームの中にライセンスの解る人材を育てる機能が必要。このフォーラムの場に於いて、私がこれまで体験してきたように、次の世代のCSRを熟知す

る人材を育てる場所になって欲しい。例えば、洗い工場で使っていたMSDS（化学物質等安全データシート）を縫製工場に活用したのは今年に入ってから。縫製工場もMSDSが無ければいけないという知識がないといけないわけで、それらへの対応の仕方を学び、トレーニングする場になれば良いと思う。

T A氏： MSDSは、そこに表示されている内容がその目的とする内容に到達できると書かれていないならば機能しない。

例えば、薬剤が目に入った時に、水で目を洗え、危険とMSDSに書いてある時、水で洗える場所は何処か、どこまで距離があるか。それを電機業界では、歩いて15秒以内くらいに到達できる場所に目を洗う眼洗器を置くなどと述べられている。大事なものは、考えるべきことは何か。小手先の対応ではなく、自律的に個のメンバーが本来の目的にどのようにして適合させるのか。各企業が、サプライチェーンのトップに立って、一番上から俯瞰した時に、果たしてサプライチェーンでは、問題なく労働基準も化学物質なども適切に行えているのか、それを自身ならどう考え、どういう基準でどのような監査をするのか、というような目線で、このフォーラムの場で考えることができれば、目標は高くなり、どこへ行っても本質論で話ができるのではないか。

E K氏： CSRコンプライアンスフォーラムは、CSM2000がきっかけで作られ、質問、意味と目的、正しい対処方法等について取り組んできている。それらを要約していくとともに、J∞Quality認証取得へのツールとしてもいいのかも知れない。



Y K氏： ブランドプロテクションについて、最初に教えてもらったのがドイツのポイトさん。ブランドプロテクションはCSRの一環だが、一番大変なことは、CSRは自主的な活動であること。だから、やらない人は全くお金を掛けない。費用対効果が常の発想で、如何に商売に繋げるかでしょう。もう一つCSVという言葉がある。CSRを行いながらビジネスに役立てていくもの。本来CSRは、基本的にはイニシアチブの活動であり、だからこそやればやるほど行わないところと差が付かないといけない。やった人の方がブランドの価値が高まっていく。それを投資あるいはインベストメントとして考え、ブランドをプロテクトする（ブランドプロテクション・イニシアチブ）。そういう目線で取り組んでいくこと。コンプライアンスは、最低基準を磨かないといけない。それを将来にわたって磨いていくこ

とが必要。そういう気持ちでいることだろうと思う。

E K氏： J∞Quality を勉強しようとする人をこちらに呼び込めるような用意はありますか。

K事務局長： そうしたいと思うが、できるだけ第3者的な姿勢でいたいと思っている。要求事項が何故必要かのところから説明しなくてはいけないので、難しい。



E K氏： J∞Quality としてではなく、そこで使っているようなツールを作ってもらい、それに基づいた勉強会をしたらいいのでは。

F K氏： 認証をとるために課題を出し、会社全体をレベルアップして解決しようとしてきており、その認証が会社の資格ともなってきた。今後、日本で出て来る課題は、高齢化社会や労働人口不足などがあるので、ドイツのマイスター制のようなものを J∞Quality に組み込んでいけば、労働人口不足が解消していくのではないかと。

D T氏： 例えば CSM2000 について、経験のない人に説明しても意味が解らないと思う。J∞Quality も多分同様なので、この場でじっくり説明することも必要だと思う。

T H氏： 当社が CSM2000 を導入して5年目。取り組み始めた頃、1年ほどは、社内で右往左往していた。品質、安全、環境など各項目に取り組んだが、現業とのギャップが大きかった。今ではエコテックジャパンの指導を得て現業の仕事イコール CSM2000 の活動に切り替えており、全体にスムーズに進んできている。CSM2000 はダイドリーミテッドさんの依頼で取り組んだが、弊社内の現業に置き換えられたのは良かったと思う。

T S氏： CSM2000 を導入して5年経過したが、導入当初のもまれたメンバーは内容を理解しているが、その後入社した社員は理解が薄い。理解しやすくなる、簡潔なツール

があれば有難い。

F H氏： ISO14000 を取得して、環境問題に取り組んでいるが、皆がそれを理解して動いているようには感じられない。社内での指導が必要だが、仕事をしながらでは大変なので、このフォーラムで個々人を指導できるような場を作ってもらえるようお願いできればと思っている。



K S氏： 各取引先への説明、色々なアパレルのブランドを取り扱わせてもらっている立場もあり、そのブランドの価値を上げていく手伝いを通して、自社のブランド力を上げていかないといけない。その中で、CSR=社会貢献的な面もあるが、会社の説明責任の話があり、当社をどこまで説明出来るのかなどを考えるとまだ課題はある。働いている意味を含めて、今後とも考えていきたい。

K K氏： 当社も上海で GSM2000 を導入しているが、取得しようと思った時点の勢いと、それが何年か続いた後では勢いが段々と覚めてくるところが現実的にある。継続性を保つのは難しい。総花ではなく、必要となることを絞り込んで取り組んでいきたいと思っている。

A M氏： J∞Quality あるいは MSDS にしてもその要求事項が何のために必要かについて、理解あるいは処置できるよう教えて頂きたいと思う。

Y M氏： 普段数字に追われ、大事なことを忘れがち。その中で、ここに参加することで社会的責任、CSR の考え方を改める場所と認識している。プラスして、自分の会社に繋がって、普段何故にこういう仕事をしているのかについて、社会に役立つという

ことを再認識する場所であつたらいいなど。参加することで色々なことを一つひとつ気が付く、また何回参加しても行く価値のある場所であればいいと思う。

RY氏： 自分の業務は、グループ会社の品質判定であり、外部に直接働きかけるものではない。この会には2005年からの参加で、この場所は当初、自分の勉強を含めての参加だった。今はその頃に勉強したことを含めて、改めて再確認する必要があると思っている。



FN氏： 3年ほど前から、LMSという独自のマネジメントシステムをスタート。社内監査のみで回してきている。その内容がISOなどと比べてどのような違いがあるかなどを調査して頂きたい。

以上のような貴重なご意見をいただく中で、以前は開催運営されていたが、現在は休会になっているセミナー委員会を新たなメンバー構成開催してはどうかという声がありました。

この件について事務局あずかりとし、次回以降に各会員の皆様と相談し、委員会の再開を検討することいたしました。

<お知らせ>

- ・第68回研究フォーラムセミナーを下記のように予定しております。

2015年9月25日金曜・14:30~17:00

(17:00~懇親会)

「創業80年の企業から見るCSR&コンプライアンス」(仮題)で
久米繊維工業株式会社・取締役会長・久米信行氏からご講演を頂く予定です。

以上